

日本ナシ「幸水」の樹冠拡大のための適正施肥時期						
[要約] 日本ナシ「幸水」の <u>基肥</u> は、11月よりも <u>10月</u> に施用した方が利用効率が高い。						
長崎県果樹試験場・施肥改善科	専門	土 壤	対象	果樹類	分類	指 導

[背景・ねらい]

長崎県で栽培されている落葉果樹の施肥は、他県で策定された基準を準用している、しかし暖地での栽培では、気象条件が異なるため効率的な暖地での施肥法を確立する必要がある。そこで、場内のナシ「幸水」を用いて、基肥と春肥の施肥時期を変えた処理を行い、樹体の生育状況を調査した。

[成果の内容・特徴]

1. 新梢の伸長量は、10月に基肥を施用したⅠ区、Ⅱ区で多い（表1）。
2. 土壌中の無機態窒素含有量は、Ⅰ区、Ⅱ区で少ない（表2）。
3. 葉中窒素含有率の推移は、Ⅰ区、Ⅱ区が高い（第3表）。
4. 基肥の施用時期については、10月中旬施用が施肥窒素の利用効率が高い。

[成果の活用面・留意点]

暖地落葉果樹の施肥基準策定の基礎資料として活用できる。

[具体的データ]

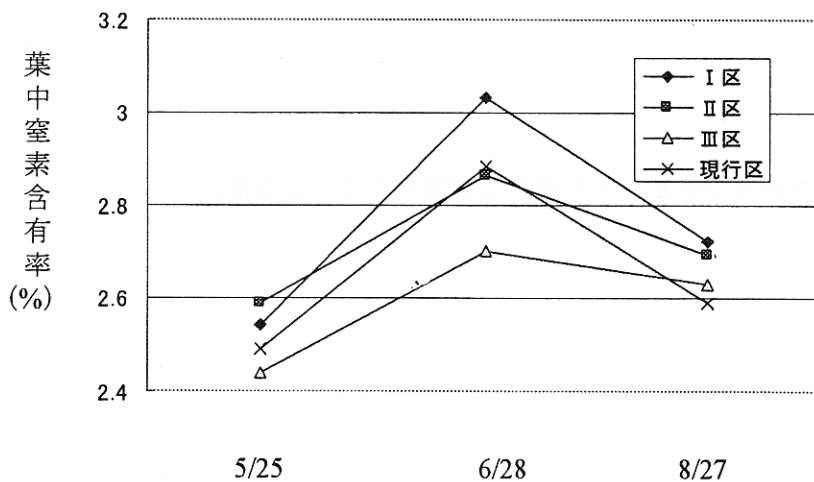
表1 新梢の伸長量 (cm,1999)

処理区	調査時期			
	5/10	5/28	6/10	6/28
I区	18.9	56.6	74.5	79.3
II区	16.0	58.0	78.0	81.9
III区	10.6	49.0	66.2	71.0
現行区	10.3	47.4	63.5	69.7

表2 土壌中の無機態窒素含有量の推移 (mg/100g,1999)

	採土時期				
	12/3	12/17	1/14	2/15	4/21
I区	9.3	5.2	7.7	6.6	9.3
II区	6.2	7.6	8.2	5.7	26.9
III区	29.6	—	39.0	21.3	18.8
現行区	32.1	32.9	26.5	22.1	25.2

図1 葉中窒素含有率の推移 (1999)



※処理は以下の内容で行った。

- I区 : 基肥 (10月中旬: 60%), 春肥 (2月中旬: 20%), 礼肥 (9月上旬: 20%)
- II区 : 基肥 (10月中旬: 60%), 春肥 (3月下旬: 20%), 礼肥 (9月上旬: 20%)
- III区 : 基肥 (11月中旬: 60%), 春肥 (3月下旬: 20%), 礼肥 (9月上旬: 20%)
- 現行区 : 基肥 (11月中旬: 60%), 春肥 (2月中旬: 20%), 礼肥 (9月上旬: 20%)

研究課題名: 暖地落葉果樹の養分吸収特性解明による施肥法の改善

予算区分: 県単

研究期間: 平成13年度 (平成10年~13年)

研究担当者: 種川淳子 井手勉 後田経雄

発表論文等: なし